

農業



令和7年4月号
会誌 No. 1729

目次

巻頭言

「農と食を大切に作る心」を育む……………佐々木和博 3

論壇

キクの試験研究の進展に思う……………柴田 道夫 4

農業懇話会

活性化でも撤退でもない農村の選択肢「むらつなぎ」を考える
…………… 齊藤 俊幸 6

農事功績者座談会

地域社会と調和しながら確立した酪農経営……………柴田輝男・誠子 21
現地指導者のコメント……………佐藤 琢哉 27
意見交換…………… 28

食を楽しむ

歴史ある里山の風土と「かてもの」がつくる心豊かな暮らし
…………… 黒田 三佳 36

研究の最前線

希少種保全とソバの送粉サービスの両立を可能にする草地管理
…………… 宮下 直 37

農業・農村の現場から

日本のフードスケープ 建築の視点で風土と伝統食品をつなぐ
風を事例として……………正田 智樹 47

世界の農業は今

東南アジアの脱農化パラドックス……………松田 正彦 53

私の経営と志

愛知県豊橋市でキャベツ・タマネギ栽培……………佐藤 健太 59
—農業の魅力と地域の課題—

農家の気持ち

作る人と食べる人はセット……………山家 一彦 61

東京農業大学収穫祭から

「十久保南蛮」と天龍村……………永野 幹久 62

表彰

令和6年度大日本農会賞の受賞者…………… 66

第63回全国青年農業者会議プロジェクト発表・

農業青年の意見発表等受賞者…………… 70

農政情報…………… 72

編集部から…………… 72

支会インタビュー

大日本農会岩手支会の紹介……………佐々木和博 73

大日本農会だより…………… 74

表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

兵庫の酒米「山田錦」生産システム

(兵庫県北播磨・六甲山北部地域：神戸市，三田市，猪名川町，西脇市，三木市，小野市，加西市，加東市，多可町)

兵庫県の南東部に位置し、北播磨から六甲山北部にかけて広がるこの地域は、江戸時代に伊丹や灘五郷といった銘醸地とともに発展した酒米産地であり、粘土質の土壤や長い日照時間など酒米栽培に適した気候風土を生かした農業が営まれてきました。降雨が少なく、水源の確保のために江戸時代以前から築造された多数のため池には、希少な動植物の分布が見られます。明治時代には酒米産地と酒造家が結びつく「村米制度」が始まり、災害時の相互扶助など、商習慣にとどまらない関係が現在も続いています。

「おいて」と呼ばれるほ場内の排水対策、栽培時の徒長や醸造時の雑味の元となる窒素を抑えた肥培管理により、収穫前には農家の栽培技術の結晶ともいえる「倒して倒さず」と表現される倒伏寸前まで登熟した稲穂の特徴的な景観が広がります。酒米の代表である「山田錦」を育成した兵庫県では、厳格な種子管理・生産システムを構築し、育種家種子の特性を維持した高品質な「山田錦」の生産を支えています。

このように、高品質な酒米の一大産地を築いてきた伝統的な農業や文化、農業生物多様性などが評価され、2025年1月に日本農業遺産に認定されました。

(兵庫県山田錦主産地農業遺産推進協議会事務局 佐藤 慎介)